

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層
 (14) 箱根神山 Km-3 テフラ 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 3

標本名 箱根神山 Km-3 テフラ 露頭剥ぎ取り標本

大きさ(分割枚数) 幅 5.35 m, 高さ 2.10 m (横に 3 枚)

重量 右 25.4 kg, 中 21.2 kg, 左 11.4 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、1 枚ずつ折りたたみ大型移動棚に収納

採集地 静岡県裾野市深良

緯度・経度 N35°13'40", E138°58'11"

標高 725 m

露頭の種別と現状 県道沿いの人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 E-W、80°S

堆積物の種別 火砕流堆積物(陸成層)

年代 約 22 ka (Km-3, 小林, 1999)

採集作業者 森山哲和(考古造形研究所)

採集立会い者 山下浩之、新井田秀一

採集日 2002 年 11 月 5 日

関連文献等

笠間友博・山下浩之(2008)地層剥ぎ取り手法による箱根火山起源テフラの記載: TCu-1, Km-3, TP, 鴨沢ローム層. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (37): 23-30.

小林 淳, 1999. 箱根火山の最近 5 万年間のテフラ層序と噴火史. 第四紀研究, 38: 327-343.

山下浩之(2003)箱根神山 3 テフラおよび始良—丹沢テフラの剥ぎ取り標本. 自然科学のとびら, 9(3): 24.

神奈川県立生命の星・地球博物館(2008)「特別展図録 箱根火山～いま証される噴火の歴史～」p.72-73.

解説 箱根中央火口丘神山起源の block-and-ash flow 堆積物について, 小林(1999)は Km-1～Km-5 の 5 回の活動に分けた。本標本はカルデラ壁を越えた Km-3 堆積物であり, 他に古期富士テフラ, AT(始良 Tn テフラ)が含まれる。以下, 笠間・山下(2008)による。

i) Km-3(層厚最大約 1 m)

粗粒砂～極粗粒砂サイズの火山灰基質中に発泡の悪い安山岩質火山岩片(最大粒径約 20 cm)を含む block-and-ash flow 堆積物で, 谷埋め型の堆積をしている。基底部には最大層厚 10 cm の火山砂層が断続的に存在する。その直上には層厚 20～30 cm の特に粗粒な岩片を含む部分がある。その上位にも層厚 20～30 cm の粗粒な部分が 2～3 層挟在するが, こ

これらの粗粒部には逆級化構造がみられる。最上部には火砕流 2 次堆積起源と考えられる円摩されたレキが散在する。

ii) AT

Km-3 の下位 1.2 m 付近に AT が認められた。剥ぎ取り標本でこの層準は上下に比べ明るい色を呈する帯状の火山灰土層となっている。

iii) 古期富士テフラ

剥ぎ取り標本には 5 枚の古期富士テフラと考えられる降下スコリア層が見られる。Fu-a～Fu-e(深良-a～深良-e)と仮称した。

記録者 笠間友博

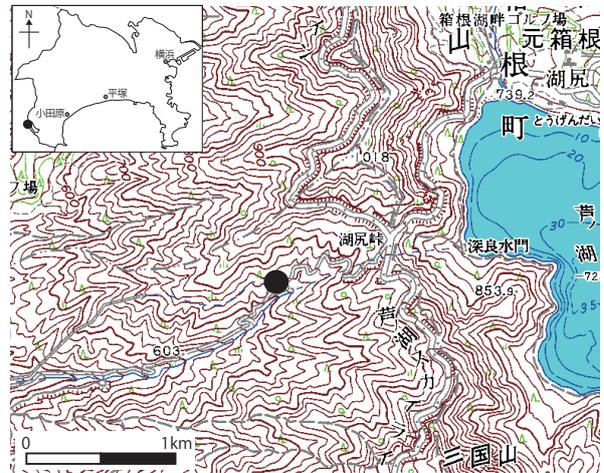


図 1a-14-1. 採集地点(国土地理院発行の数値地図 50,000(地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1a-14-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。



図 1a-14-3. 剥ぎ取り標本の展示作業の様子(2008 年度特別展「箱根火山～いま証される噴火の歴史～」)。

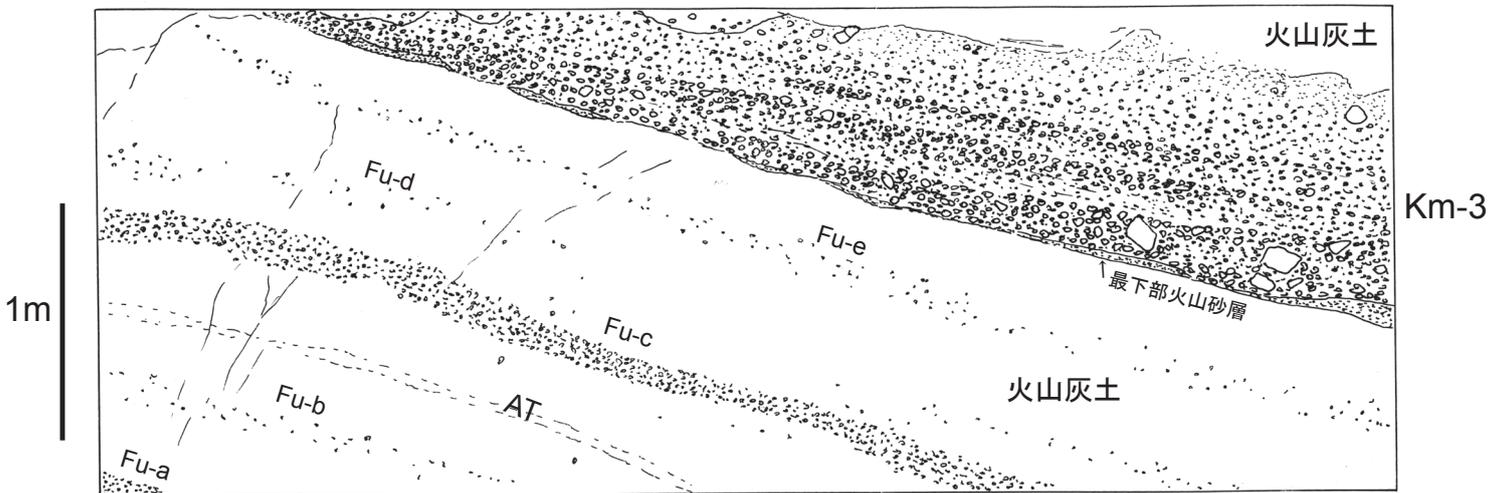


図 1a-14-4. 剥ぎ取り標本の写真(上)とスケッチ(下, 笠間・山下(2008)).



図 1a-14-5. 剥ぎ取り標本の展示の様子(2008年度特別展「箱根火山～いま証される噴火の歴史～」).